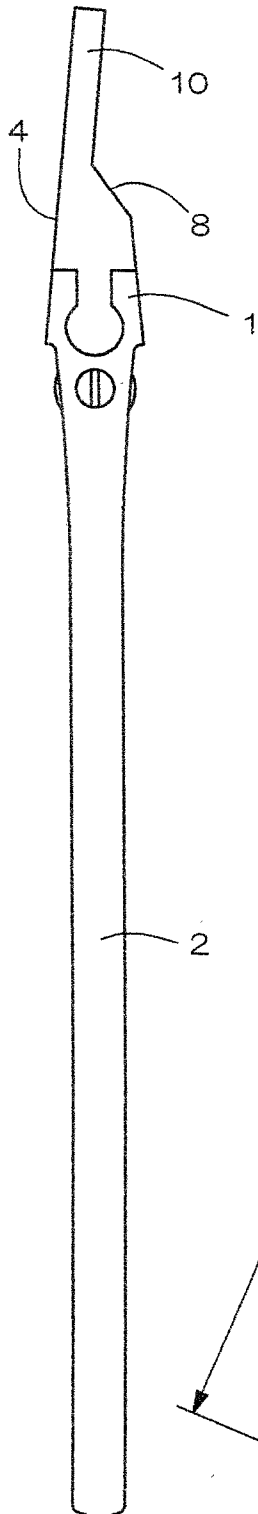
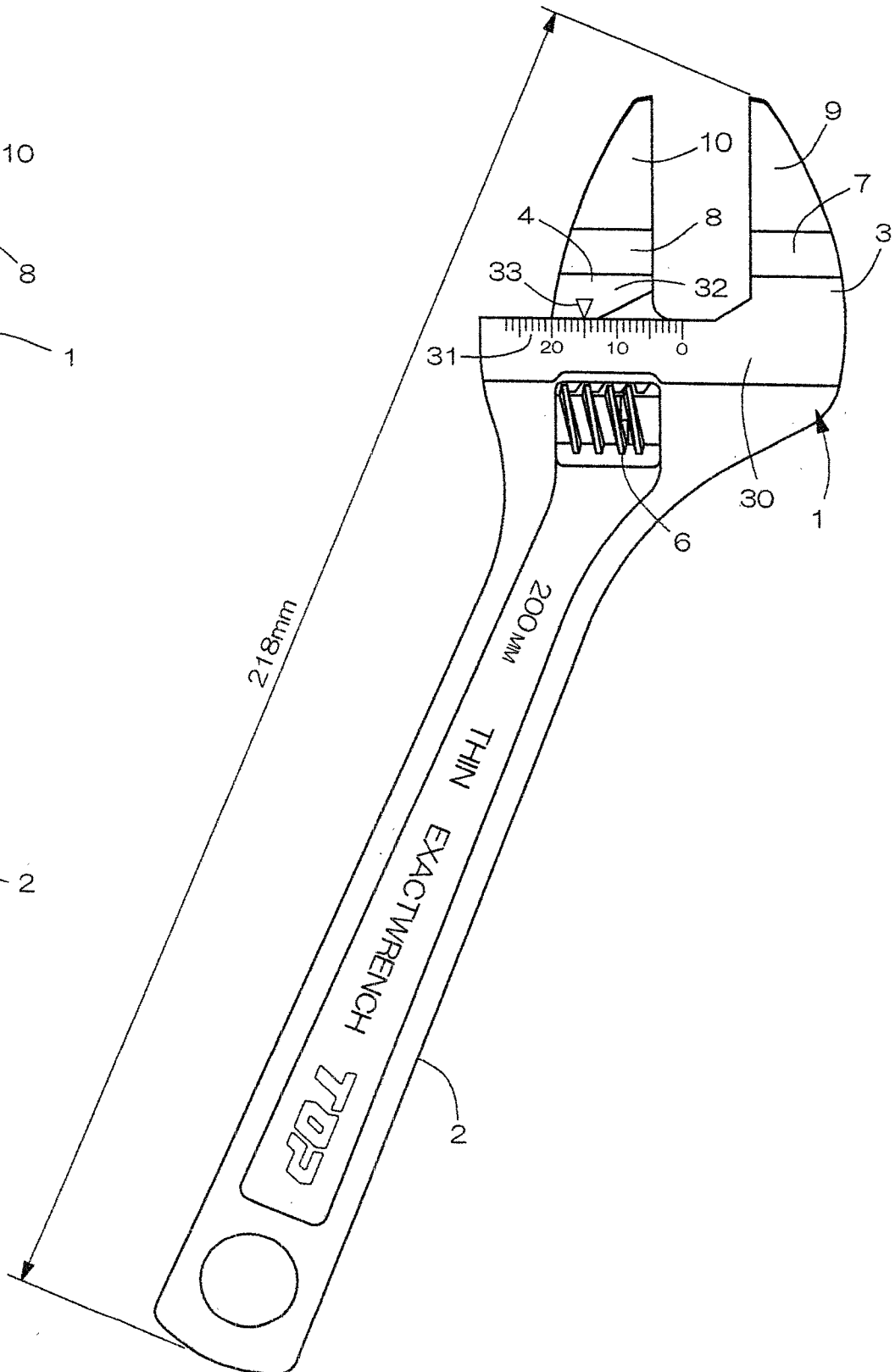


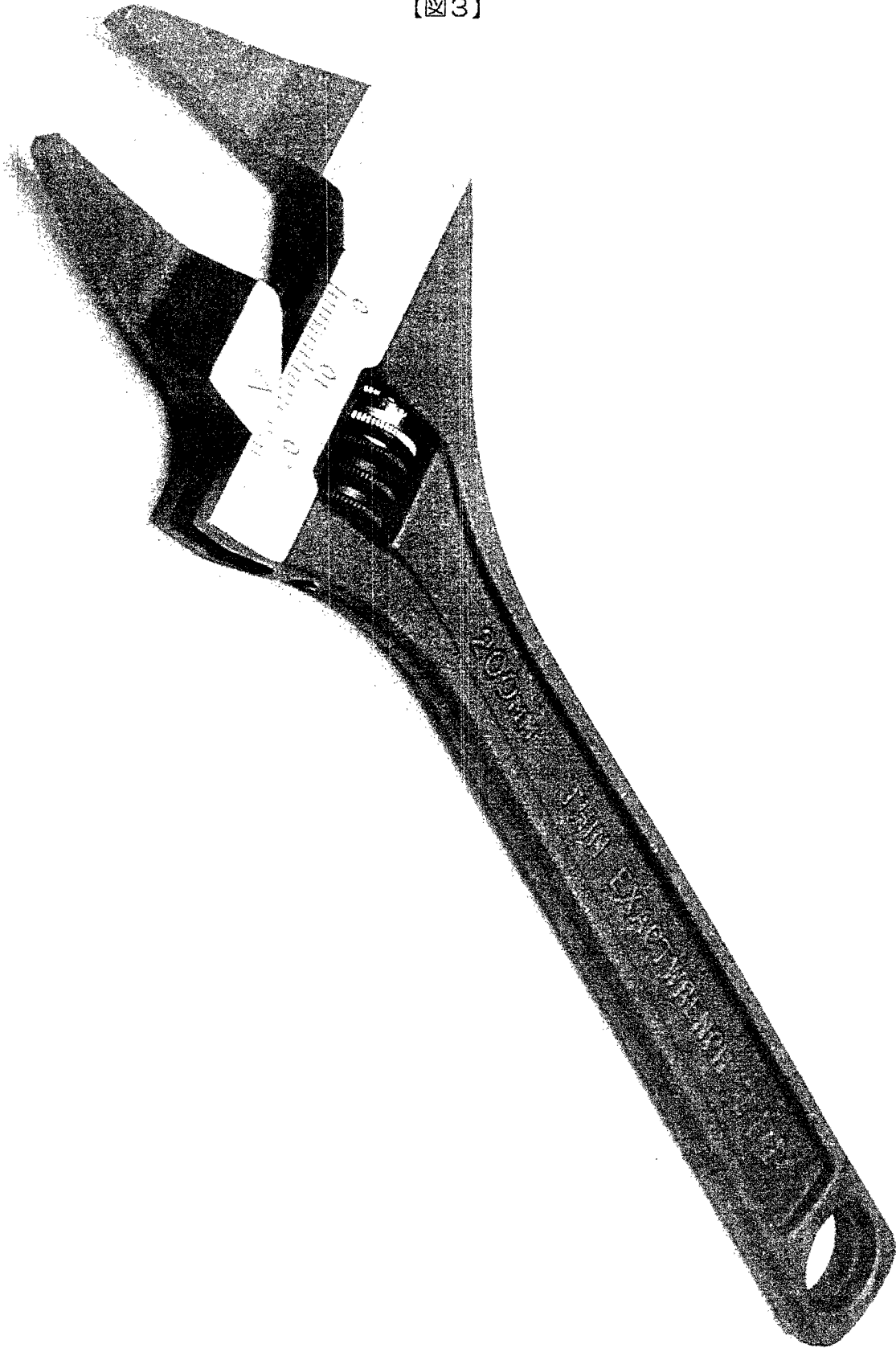
【図1】



【図2】



【図3】



物件目録（被告製品）

ロ号物件

1 被告製品

商品名 薄型イグザクトレンチ（ベントタイプ）

製品番号 HT-150B

2 図面の簡単な説明

- 図1 ロ号物件の側面図
- 図2 ロ号物件の上面図
- 図3 ロ号物件の写真

3 符号の説明

- 1 レンチ主体
- 2 握柄
- 3 固定あご部
- 4 可動あご部
- 6 ウォーム
- 7 固定あご部の段部
- 8 可動あご部の段部
- 9 a 固定あご部の薄肉挟持部
- 10 a 可動あご部の薄肉挟持部
- 30 レンチ主体の平面部
- 31 目盛表示
- 32 可動あご部の平面部
- 33 矢印表示

4 構造の説明

図1および図2において、ロ号物件のモンキーレンチは、レンチ主体1に握柄2が一体に連設されている。レンチ主体1の前部には、固定あご部3と可動あご部4とが前方突出状に設けられている。レンチ主体1にウォーム6を配し、可動あご部4の基端にウォーム6が噛合するラックを設けてある。ウォーム6の回転操作によって、固定あご部3に対し可動あご部4を平行に進退摺動させることにより、固定あご部3と可動あご部4との間の開口寸法を調整することができる。

固定あご部3および可動あご部4には、前方への突出方向の中間部の片面（上

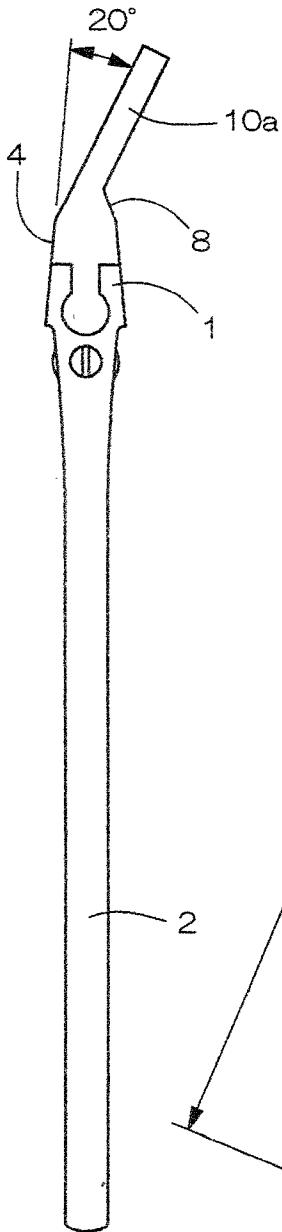
面)に、前下がりに傾斜する段部7・8がそれぞれ幅方向にわたって形成されている。これら各段部7・8を形成することによって、各段部から前方の先端部を薄肉にして、固定あご部3および可動あご部4の前部に、上面(片面)が平坦な薄肉挟持部9a・10aがそれぞれ設けられている。各薄肉挟持部9a・10aの厚み寸法は3.7mm(公差+0.3mm)である。

固定あご部3および可動あご部4は、各段部7・8の傾斜下端につながる先端部の薄肉挟持部9a・10aが 20° の傾斜角 θ を以て片面(上面)側に傾斜した状態で対向している。

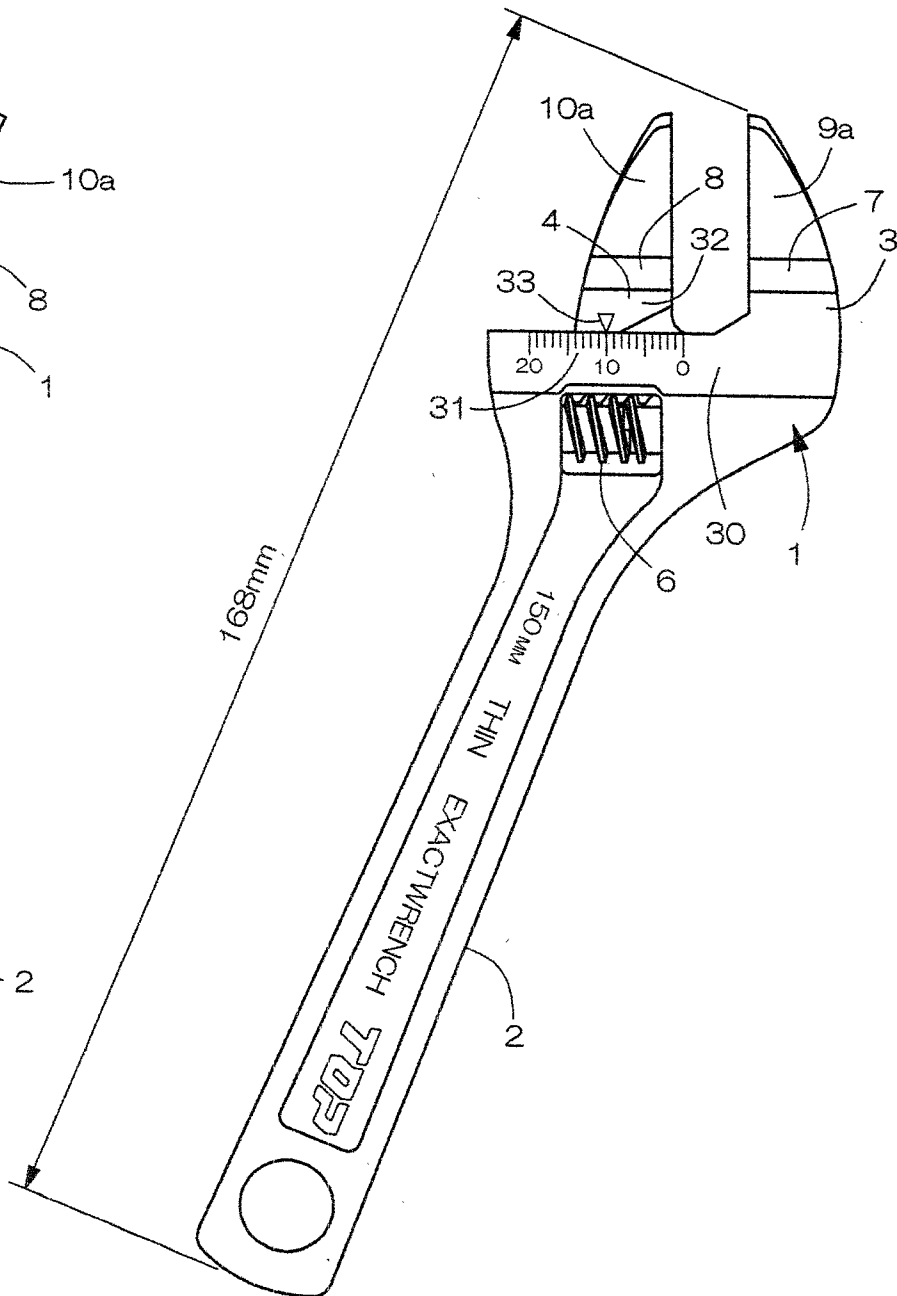
レンチ主体1の上面(片面)には、平面仕上げ加工された平面部30を有し、この平面部30に目盛表示31が刻設されている。可動あご部4の上面(片面)の基端側にも、平面仕上げ加工された平面部32を有し、この平面部32に矢印表示33が刻設されている。これら目盛表示31と矢印表示33とで、固定あご部3と可動あご部4との間の開口実寸法を知ることができる。

以上

【図1】



【図2】



【图3】



物件目録（被告製品）

ハ号物件

1 被告製品

商品名 薄型イグザクトレンチ（ベントタイプ）

製品番号 HT-200B

2 図面の簡単な説明

- 図1 ハ号物件の側面図
- 図2 ハ号物件の上面図
- 図3 ハ号物件の写真

3 符号の説明

- 1 レンチ主体
- 2 握柄
- 3 固定あご部
- 4 可動あご部
- 6 ウォーム
- 7 固定あご部の段部
- 8 可動あご部の段部
- 9 a 固定あご部の薄肉挟持部
- 10 a 可動あご部の薄肉挟持部
- 30 平面部
- 31 目盛表示
- 32 平面部
- 33 矢印表示

4 構造の説明

図1および図2において、ハ号物件のモンキーレンチは、レンチ主体1に握柄2が一体に連設されている。レンチ主体1の前部には、固定あご部3と可動あご部4とが前方突出状に設けられている。レンチ主体1にウォーム6を配し、可動あご部4の基端にウォーム6が噛合するラックを設けてある。ウォーム6の回転操作によって、固定あご部3に対し可動あご部4を平行に進退摺動させることにより、固定あご部3と可動あご部4との間の開口寸法を調整することができる。

固定あご部3および可動あご部4には、前方への突出方向の中間部の片面（上

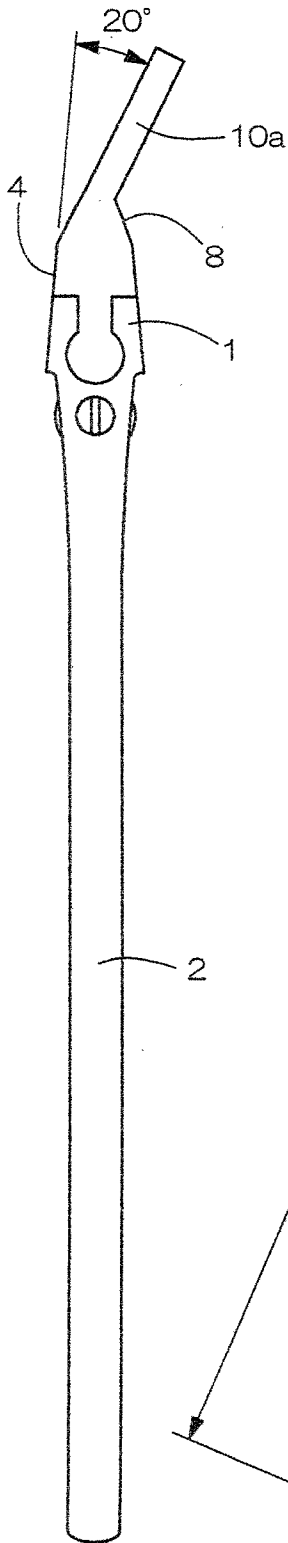
面)に、前下がりに傾斜する段部7・8がそれぞれ幅方向にわたって形成されている。これら各段部7・8を形成することによって、各段部から前方の先端部を薄肉にして、固定あご部3および可動あご部4の前部に、上面(片面)が平坦な薄肉挟持部9a・10aがそれぞれ設けられている。各薄肉挟持部9a・10aの厚み寸法は4.5mm(公差±0.5mm)である。

固定あご部3および可動あご部4は、各段部7・8の傾斜下端につながる先端部の薄肉挟持部9a・10aが、 20° の傾斜角 θ を以て片面(上面)側に傾斜した状態で対向している。

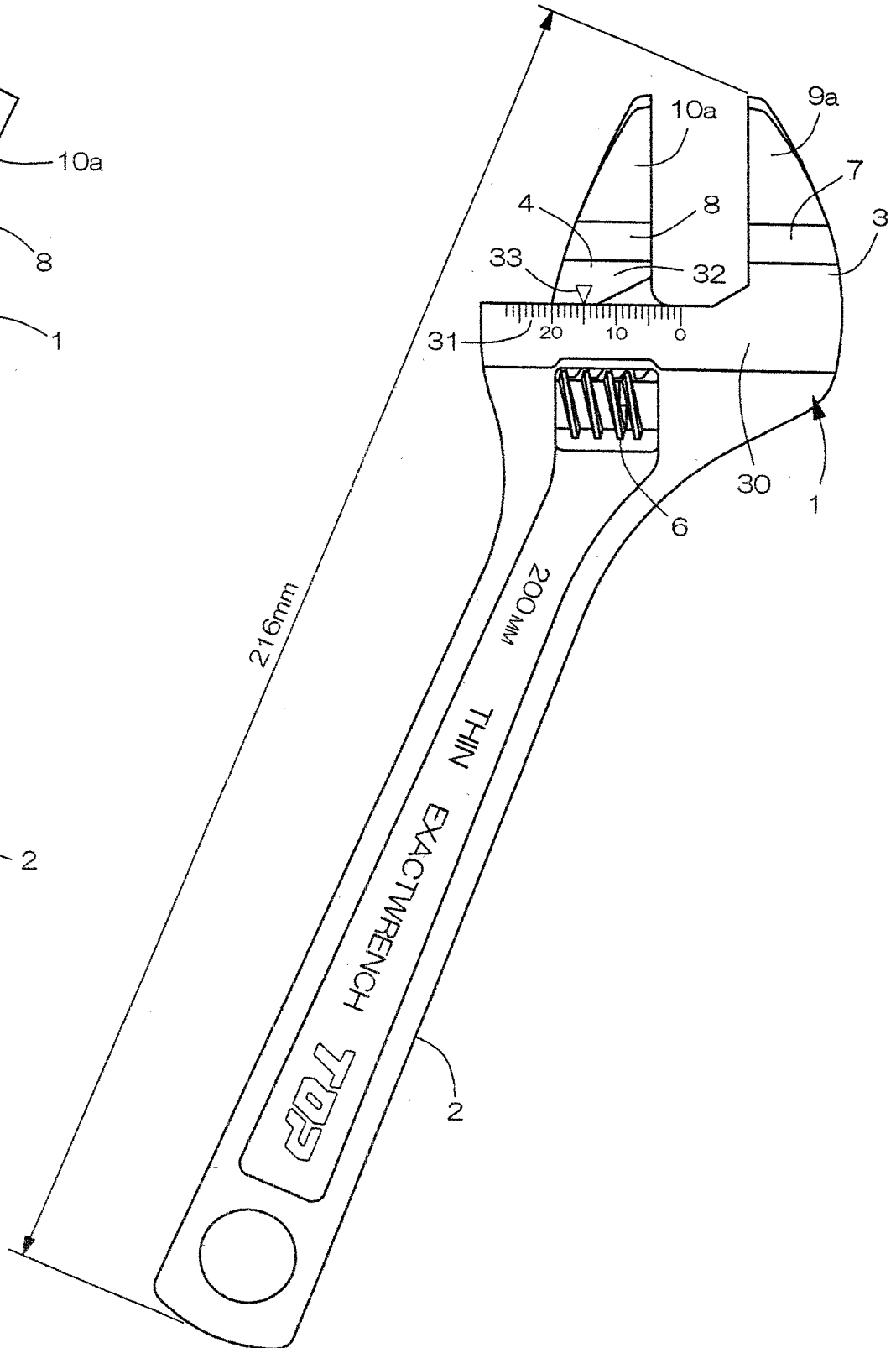
レンチ主体1の上面(片面)には、平面仕上げ加工された平面部30を有し、この平面部30に目盛表示31が刻設されている。可動あご部4の上面(片面)の基端側にも、平面仕上げ加工された平面部32を有し、この平面部32に矢印表示33が刻設されている。これら目盛表示31と矢印表示33とで、固定あご部3と可動あご部4との間の開口実寸法を知ることができる。

以上

【図1】



【図2】



【图3】



物件目録（被告製品）

イ号物件

1 被告製品

商品名 薄型イグザクトレンチ（ストレートタイプ）

製品番号 HT-200S

2 図面の簡単な説明

図1 イ号物件の側面図

図2 イ号物件の上面図

図3 イ号物件の写真

3 符号の説明

- 1 レンチ主体
- 2 握柄
- 3 固定あご部
- 4 可動あご部
- 6 ウォーム
- 7 固定あご部の段部
- 8 可動あご部の段部
- 9 固定あご部の薄肉挟持部
- 10 可動あご部の薄肉挟持部
- 30 レンチ主体の平面部
- 31 目盛表示
- 32 可動あご部の平面部
- 33 矢印表示

4 構造の説明

図1および図2において、イ号物件のモンキーレンチは、レンチ主体1に握柄2が一体に連設されている。レンチ主体1の前部には、固定あご部3と可動あご部4とが前方突出状に設けられている。レンチ主体1にウォーム6を配し、可動あご部4の基端にウォーム6が噛合するラックを設けてある。ウォーム6の回転操作によって、固定あご部3に対し可動あご部4を平行に進退摺動させることにより、固定あご部3と可動あご部4との間の開口寸法を調整することができる。

固定あご部3および可動あご部4には、前方への突出方向の中間部の片面（上

面)に、前下がりに傾斜する段部7・8がそれぞれ幅方向にわたって形成されている。これら各段部7・8を形成することによって、各段部から前方の先端部を薄肉にして、固定あご部3および可動あご部4の前部に、上面(片面)が平坦な薄肉挟持部9・10がそれぞれ設けられている。各薄肉挟持部9・10の厚み寸法は4.5mm(公差±0.5mm)である。

レンチ主体1の上面(片面)には、平面仕上げ加工された平面部30を有し、この平面部30に目盛表示31が刻設されている。可動あご部4の上面(片面)の基端側にも、平面仕上げ加工された平面部32を有し、この平面部32に矢印表示33が刻設されている。これら目盛表示31と矢印表示33とで、固定あご部3と可動あご部4との間の開口実寸法を知ることができる。

以上